

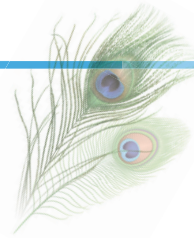
もくじ

監修にあたって … v

序 … vii

第1章 創傷管理 1

1. 創傷の分類・診断・検査	館 正弘	2
急性創傷と慢性創傷／急性創傷の診断／慢性創傷の診断／生理機能検査 ■ 糖尿病性足潰瘍例における（下肢）SPP 値の測定…7		
2. 急性創傷管理法	館 正弘	9
創傷処理／術後管理 I 擦過創の治療…11 II 顔面裂創の治療…12		
3. 慢性創傷管理法	館 正弘・宮永 亨	14
創傷管理のアルゴリズム／TIME／デブリードマン I 外科的デブリードマン…19 II 保存的外科デブリードマン…20 III 生物学的デブリードマン（マゴット療法）…21		
4. 軟膏療法	安田 浩	23
主剤による適応／基剤による適応 I 感染・壊死を伴う褥瘡に対する軟膏療法…26 II 肉芽と壊死組織が混在した潰瘍に対する軟膏療法…28 III II 度熱傷潰瘍の保存的治療…29 IV 指尖部損傷の保存的治療…31		
5. 創傷被覆材	橋本 一郎・安倍 吉郎	33
創傷被覆材とは／被覆材の材質による分類／創傷から見た被覆材の選択／手技 I 擦過傷…39 II 熱傷…40 III 指尖部損傷…41 IV 背部正中の褥瘡…42 V 静脈うっ滞性潰瘍…44		
6. 局所陰圧閉鎖療法	市岡 滋	46
局所陰圧閉鎖療法とは／適応となる疾患／禁忌，合併症 I 器具の装着…48 II 下腿骨髓炎…50 III 糖尿病性足潰瘍：局所陰圧閉鎖療法と人工真皮の併用…52		



Ⅳ 縦隔炎：局所陰圧閉鎖療法による wound bed preparation…54

7. 感染創の治療

- 1) SSI の予防と対処法 …………… 大慈弥 裕之 57
Surgical site infection とは／術前管理／術中管理／術後管理
- 2) 感染創の管理 …………… 漆館 聡志・三上 誠 60
診断のポイント／救急処置と治療法の選択／手術方法
- Ⅰ 切開・排膿…62
 - Ⅱ 壊死を伴う感染創の処置：創の開放・排膿…64
 - Ⅲ 壊死を伴う感染創の処置：wet to dry dressing 法による創底管理…65

第2章 周術期管理と麻酔 67

1. 術前準備と術後管理 …………… 櫻井 裕之 68
入室前病棟管理／入室後術前準備／手洗い・ガウン／術野の消毒／術野の覆布（ドレープ）／
抗生剤の選択と投与／術後の創管理と包帯交換
- 顔面手術のドレープ法…75
2. 形成外科で用いる局所麻酔法 …………… 松村 一 77
麻酔法の選択／静脈麻酔との併用～特にプロポフォールの危険性について／
局所麻酔薬の種類と安全確保のための必須事項
- Ⅰ 皮膚の表面麻酔…81
 - Ⅱ 粘膜の表面麻酔…81
 - Ⅲ 皮膚浸潤麻酔…83
 - Ⅳ 眼窩上神経ブロック…84
 - Ⅴ 眼窩下神経ブロック…85
 - Ⅵ おとがい神経ブロック…86
 - Ⅶ 後頭神経ブロック…87
 - Ⅷ 腕神経叢ブロック：腋窩アプローチ…88
 - Ⅸ 手関節部掌側でのブロック…89
 - Ⅹ 足関節でのブロック…91
 - Ⅺ 指神経ブロック…94

第3章 形成外科手術手技の特徴と基本手術器具 95

- 形成外科手術手技の特徴と基本手術器具 …………… 宇田 宏一 96
形成外科手技の特徴／形成外科手術器具セット
- Ⅰ 形成外科手術器具（材料）の特徴とその使用法…98

第4章 皮膚切開と縫合法 109

1. 皮膚切開……………大西 清 110

RSTL と Langer 割線／デザイン／皮膚切開

- I 頭部の皮膚切開…114
- II 頭部の冠状切開…114
- III 顔面の皮膚切開…116
- IV 体幹の皮膚切開…118
- V 四肢の皮膚切開：手指部の機能的皮膚切開…119

2. 剥離，止血，ドレナージ法……………三鍋 俊春・大西 文夫 121

基本的な剥離手技／部位別に見た剥離層と剥離手技／止血手技／ドレナージ法

- I 頬部皮弁の剥離・挙上…126
- II 四肢・体幹における穿通枝皮弁の挙上…127
- III 四肢・体幹における組織拡張器の挿入…128
- IV 止血法…128
- V ドレナージ法…130

3. 結紮法

1) 用手結紮……………福積 聡・鳥海 正博 132

結紮の種類と選択

- I 両手結紮 1：両手を用いて左右均等に糸を締める，結紮の基本…133
- II 両手結紮 2：針付きの長い糸を結ぶ場合…137
- III 片手結紮 1：早く結ぶことができる…140
- IV 片手結紮 2：糸の一方が短い場合…144
- V 外科結紮…146
- VI クランプした箇所（血管）の結紮…149
- VII 深部（体腔内）での結紮…151
- VIII 緊張をかけながらの結紮…153

2) 器械縫合法……………上田 晃一・重村 友香 156

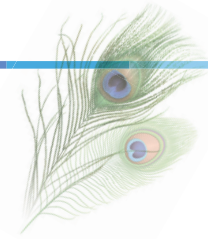
- 器械縫合の方法…156

4. 創の縫合法

1) 縫合法……………田中 克己 161

縫合の歴史／皮膚縫合／各部の創縫合

- I 顔面裂創の治療…167
- II 口唇の創縫合…169



- 2) 縫合糸に代わる閉鎖法 垣淵 正男 171
閉鎖法の選択と適応／使用される材料と特徴
I テープ類による創閉鎖…174
II 皮膚表面接着剤による創閉鎖…175
III スキンステーブラーによる創閉鎖…176
IV 創傷被覆・保護材を応用した創閉鎖…177
V その他の方法：シューレース法…178
- 3) 縫合創の処置・後療法 土佐 泰祥 179
縫合創の管理／後療法
I 抜糸：愛護的操作…183
II 抜糸後創処置：テーピング…184

第5章 マイクロサージャリー 185

1. 基本知識 中塚 貴志 186
マイクロサージャリー手技の種類／形成外科における適応／必要な手術器具・セット
2. 練習方法 多久嶋 亮彦 192
I 手袋・人工血管での縫合練習：手術用顕微鏡・実体顕微鏡に慣れる…192
II 手袋・人工血管での縫合練習：マイクロ用針糸での縫合…193
III 手袋・人工血管での縫合練習：人工チューブを使った練習…194
IV 鶏肉の血管などを使った練習…195
V 小動物を用いた血管吻合の練習：使用血管の準備…195
VI 小動物を用いた血管吻合の練習…197
VII ラットを用いた遊離皮弁移植術…198
3. 微小血管吻合法 朝戸 裕貴 200
準備と術野／微小血管吻合の原則／術後管理とモニタリング
I 動脈吻合：端々吻合…203
II 動脈吻合：非反転後壁縫合法…205
III 動脈吻合：端側吻合…207
IV 動脈吻合：動脈（静脈）移植…208
V 静脈吻合：端々吻合…210
VI 静脈吻合：端側吻合…212
VII 微小自動血管吻合器…213
4. 神経縫合法 松田 健 215
末梢神経の解剖／末梢神経損傷と評価／治療法の選択／神経縫合法の種類／縫合の準備と縫合法の選択
I 神経上膜縫合法…218

II 端側神経縫合法…220

5. リンパ管縫合法……………光嶋 勲 222

リンパ管（細）静脈吻合法とは／術前準備／術後管理と合併症回避

■ LVA 端々吻合法・LVA 端側吻合法…223

第6章 生体材料と生体組織工学・再生医療 227

1. 生体材料・バイオマテリアル総論……………河合 勝也 228

生体材料とは／分類／骨接合材／人工骨／乳房インプラント

2. 人工真皮……………鈴木 茂彦 234

人工真皮とは／選択と適応／応用の実際

3. 培養表皮……………副島 一孝 243

培養表皮とは／培養表皮の作成方法／培養表皮の選択と適応

4. 成長因子……………秋田 定伯 251

生体組織工学・再生医療における成長因子（細胞増殖因子）の働き／臨床応用の現況

5. その他の再生医療

1) 再生軟骨……………星 和人 257

軟骨の再生

2) 毛包・皮膚の再生……………貴志 和生 261

毛包の再生／皮膚の再生

3) 脂肪幹細胞……………吉村 浩太郎 264

脂肪由来幹細胞とは／脂肪組織の構造およびその細胞成分／SVF 細胞の分離法／

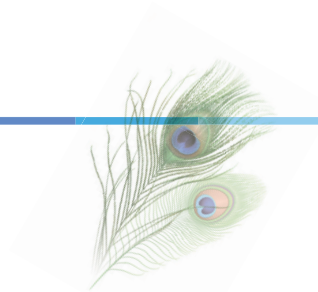
細胞の移植方法と臨床応用／再生治療としての脂肪移植／ASC を利用した脂肪組織移植／

今後の ASC の臨床応用の方向性

4) 無細胞化組織……………高見 佳宏 267

無細胞化組織とは／無細胞真皮マトリックス（acellular dermal matrix : ADM）／

その他の無細胞化組織／今後の展望



第7章 知っておきたい知識 271

1. 形成外科の歴史.....鈴木 茂彦 272
名称の由来／世界の形成外科の歴史／日本の形成外科の歴史
2. 形成外科における形態学.....貴志 和生・坂本 好昭 277
整容的形態を重視する形成外科／顔面の形態学
3. 形成外科患者の精神病理.....難波 祐三郎・木股 敬裕 281
形成外科の患者心理と障害が与える影響／身体醜形障害／性同一性障害
4. 創傷治癒のメカニズム.....貴志 和生 285
皮膚の創傷治癒過程／創傷治癒に影響する因子／筋肉の創傷治癒／骨の創傷治癒／
血管の創傷治癒／神経の創傷治癒

索引...291